

# 甲状腺外科草子 33

## 青洲の里探訪

杉野 圭三

華岡青洲が生まれ、活躍した和歌山を訪ねたのは2013年11月であった。和歌山駅から和歌山線に乗り、約40分で名手駅に到着したが、各駅停車のため随分遠い印象であった。駅からの交通手段は歩くには遠く、バスの便はなく、タクシーのみである。

やっと到着したものの、開館時間を間違え1時間早く到着してしまった。名刺を渡し、医学部学生の講義に使用していることを熱く説明し、ご厚意で入館許可をいただいた（ご親切に感謝！）。



春林軒主屋



青洲の手術再現

華岡家の敷地はかなり広く、その中に主屋を中心とした附属施設（看護婦宿舎、門弟の宿舎、病室など）があったようである。



敷地の見取り図

現在の敷地内には青洲の石像などが展示されている。



華岡家発祥の碑



青洲像

資料館の内部は青洲の使用した手術器械、春林軒で使用した教科書、塾の掟、門人帖、乳癌治験録、杉田玄白からの手紙、直筆の書などが多数展示されていた。



杉田玄白からの手紙

この多くはこれまでの書物などの印刷物に掲載された有名な物である。しかし、ここでしか滅多にお目にかかれない珍品も展示されていた。



エー・グルトの外科医学史（1898年、明治31年）

華岡青洲の麻酔と手術の功績はエー・グルトにより世界に初めて紹介されたが、その書物の実物が展示されていた。

また、青洲は達筆で多くの書を残しているが、この資料館で初めて見たものがある。

### 願乗長風破万里浪



願わくは長風に乗り万里の浪を破らん

南朝宋の軍人、宗愨（そうかく、生年不詳-465年）の言葉

宗愨が年少の頃、叔父に志望を問われた時の勇壮な言葉である。反射のため不本意な写真となった。時間外に訪問した状況から、さすがに「展示室のガラスを開けてくれ」と無理も言えなかった。何とかこの軸のレプリカでも手に入れたいものである。

### 参考文献

上山英明. 華岡青洲先生 その業績とひととなり. 1999.

（一甲状腺外科医の徒然なる随想）

2022年6月15日